

文書番号 CE-210-25A
発行日 2025.07.01

エコアクション21 環境経営レポート

2024年度（期間2024/4～2025/3）



ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部

〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-7-6
Tel 0428-24-3830(代表) Fax 0428-24-8599

1. 組織の概要

(1) 事業者名

ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部

(2) 代表者名

事業部長 中田 透

(3) 所在地

青梅事業所 〒198-0042 東京都青梅市東青梅1-7-6

仙台事務所 〒989-2436 宮城県岩沼市吹上2-3-7

(4) 環境管理責任者及び連絡先

環境管理責任者 宗片 昭広

連絡先 Tel 0428-24-3830(代表) Fax 0428-24-8599

(5) 資本金

40,000万円(ケミコン東日本株式会社)

(6) 事業の規模

従業員数 47名(2025年3月現在)

(7) 事業内容

各種精密部品加工、販売

合理化、省力化機器設計及び製作、販売

2. 対象範囲

組織の概要に記載した全事業所・全事業内容

3. 環境経営方針

当社は、環境経営方針を以下の通り定め、これに基づき行動します。

文書番号 CE-101-24B

環 境 経 営 方 針

ケミコン東日本(株)エンジニアリング事業部は、日本ケミコングループの国内設備製作会社として『日本ケミコン環境基本方針』に基づき環境保全活動に取り組んでいきます。
併せて経営における課題とチャンスの明確化を考慮し、この環境経営方針をケミコン東日本(株)エンジニアリング事業部全事業所の活動方針として制定致します。

1. 環境経営方針を達成するために、適切な組織の構築、必要な人的・物質的資源を整え、目標を定め継続的改善および環境負荷の削減に取り組みます。
環境経営方針ならび環境経営目標は、それぞれ可能な範囲で経営における課題とチャンスを踏まえ整理、明確化し、毎年定期見直しを行なうとともに必要な場合は臨時見直しを行います。
2. 環境関連の法規、条例を遵守し当社が設定した目標に向け継続的に取り組みます。
3. 全従業員がこの方針に従い、各事項に対し積極的に環境管理活動を展開します。
4. 当社の事業活動が環境に影響を与える以下の項目に取り組みます。
 - ①カーボンニュートラル対応並びに省エネルギー推進(CO2削減)
 - ②廃棄物の削減およびリサイクルの推進
資源の有効活用とプラスチックを含む廃棄物の3R(リデュース、リユース、リサイクル)推進
 - ③水使用量の削減(節水)
 - ④化学物質の管理(【入れない】・【使わない】・【出さない】・【混ぜない】の徹底)
 - ⑤グリーン調達(【入れない】・【使わない】・【出さない】・【混ぜない】の徹底)
 - ⑥自社製品の環境配慮(顧客満足度向上のための対応力強化)
5. 生物多様性への対応として、生物多様性保全活動を推進、展開するとともに地域及び企業間連携に取り組みます。
6. 環境事故、自然災害時等の環境リスク並びに気候変動リスクについて、発生時の対応及び予防に努め、その発生時の影響を最小限に抑える組織を確立し、維持します。
7. 環境経営方針は文書化し、教育訓練および日常の活動を通じて、当社で働く全ての人に周知・徹底をはかるとともに社外にも公表致します。

2024年6月11日

ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部
事業部長

代表者署名

中田 透

4. 環境経営目標

当社における2012年度実績を基準とし、2023年度から2025年度までの中期目標を設定

項 目	基準	中 期 目 標		
	2012年度実績	2023年度	2024年度	2025年度
1) 省エネルギーの推進 (CO2の削減)	2,638 Kg-CO2/人	2,261 Kg-CO2/人	2,238 Kg-CO2/人	2,216 Kg-CO2/人
①電力使用量		2012年度	2012年度	2012年度
②灯油		実績平均比	実績平均比	実績平均比
③液化石油ガス(LPG)		14.3%削減	15.1%削減	16.0%削減
④ガソリン				
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進	0.078 t/人	0.071 t/人	0.071 t/人	0.071 t/人
①一般廃棄物(可燃、不燃ごみ)		2012年度	2012年度	2012年度
②廃プラスチック		実績平均比	実績平均比	実績平均比
③廃油・廃液		8.8%削減	8.8%削減	8.8%削減
④廃鉄(金属くず、配膳くず)				
⑤段ボール等(資源ゴミ)				
⑥木屑				
3) 水使用量の削減	8.59 m ³ /人	7.82 m ³ /人	7.82 m ³ /人	7.82 m ³ /人
①下水道		2012年度	2012年度	2012年度
		実績平均比	実績平均比	実績平均比
		9.0%削減	9.0%削減	9.0%削減
4) 化学物質の管理		PRTR法に該当する量の化学物質が使用されていないか監視する。代替えなどの可能性を探り、不可能な場合正しい届出がされているかの確認をする。		
①化学物質の監視				
5) グリーン調達の実進		製品を製造するために必要な原材料、部品、設備などを調達する時、環境負荷の少ないものから優先的に選ぶ。		
6) 自社製品の環境配慮		設計案件に対してのRoHS・省エネ対応部品明細表の使用状況を月次で把握し、不備があった場合その理由を明確にする。		
7) 生物多様性への対応		生物多様性保全活動を推進、展開。		

※CO2排出係数は、0.378→0.463Kg-CO2/kWhを使用(2020年度より)し、毎年1%削減する。

※廃棄物、水使用量は、2012年度実績値より約8.0%削減した値を3か年の目標としています。

※今期は中期計画3か年の2年目として活動を実施しております。

5. 環境経営計画(2024年度)

(1) 省エネルギーの推進 (CO2の削減)

- ①空調設定温度管理徹底(夏季28℃、冬季20℃)節電対策
- ②照明、OA機器の節電、省電力設定の徹底
- ③簡易間仕切り、作業エリアの分割、限定推進
- ④デマンドの活用、ピーク値管理の強化
- ⑤社有車エコ運転の徹底及び教育
- ⑥社有車自主定期点検の徹底(事故防止・燃費向上:毎月1回)
- ⑦コンプレッサーエア点検・整備(毎月1回)実施
- ⑧コンプレッサーエア漏れ点検(5・12月、年2回)実施
- ⑨空調機器フィルター清掃点検(6・12月、年2回)実施
- ⑩第二種圧力容器定期自主点検(5・12月、年2回)実施
- ⑪工作機械定期自主点検(4・10月、年2回)実施
- ⑫省エネルギーの推進(深堀)

(2) 廃棄物の削減及び3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進

- ①段ボールのリサイクル徹底(非焼却)
- ②古新聞・古雑誌等のリサイクル徹底(非焼却)
- ③緩衝剤、木材パレットの再利用
- ④事務用紙の再利用／リサイクルの徹底
- ⑤部品梱包の簡略化／削減
- ⑥廃棄物置場点検(毎月1回)実施
- ⑦廃棄物の削減及びリサイクルの推進(深堀)

(3) 水使用量の削減(節水)

- ①各蛇口の節水、ルールの徹底
- ②水道メータ点検(毎月2回)実施
- ③蛇口等の水漏れ点検(5・8・11・2月、年4回)実施
- ④埋設配管点検(6・12月、年2回)実施
- ⑤水使用量削減(深堀)

(4) 化学物質の管理

- ①新たな化学物質使用の監視・確認
- ②化学物質一覧表の見直し、更新(9・3月、年2回)
- ③灯油置場点検(毎月1回)実施
- ④薬品油類置場点検(毎月1回)実施
- ⑤フロンガス使用機器点検(4・7・10・1月、年4回)

(5) グリーン調達の推進

- ①グリーン調達一覧表の見直し、更新
- ②部品のRoHS検査の実施(RoHS対応証明できないものは日本ケミコン分析Gに依頼)

(6) 自社製品の環境配慮

- ①RoHS・省エネ対応部品明細使用の遵守・確認
- ②小型化、長寿命化、部品数削減等の推進
- ③省エネ部品使用の推進・深堀

(7) 生物多様性への対応

- ①巣箱の設置、観察(野鳥の保護)毎月1回
- ②植樹・モッコクの木観察(野鳥の保護)
観察毎月1回、4月～9月(原則毎月消毒)
- ③教育DVDを視聴し、環境に対する意識を高める

6. 環境経営目標の実績と評価

項 目	単 位	2012年度 実績値(基準)	2024年度(2024/4～2025/3)		
			目 標 (絶対値)	実績 (絶対値)	評 価
1)省エネルギーの推進 (CO2の削減)	kg-CO2/人	2,638	2,238 (124,388)	1,963 (109,106)	○
2)廃棄物の削減及びリサイクルの推進	t/人	0.078	0.071	0.024	○
3)水使用量の削減	m3/人	8.59	7.82	7.49	○
4)化学物質の管理	—	—	新たな化学物質の使用の 監視	消毒用のアルコール除菌 剤を更新。危険物対象薬 品をリスクアセスメントし評 価を行った。	○
5)グリーン調達の推進	—	—	原材料、部品、設備などを 調達する時、環境負荷の 少ないものから優先的に選 ぶ	毎月漏れなく実施	○
6)自社製品の環境配慮	—	—	毎月のRoHS・省エネ明細の 使用把握と不備理由の明 確化	毎月漏れなく実施	○
7)生物多様性への対応	—	—	生物多様性保全活動を推 進、展開	毎月漏れなく実施	○

評価判定 ○……目標達成 ×……目標未達成

1)省エネルギーの推進 (CO2の削減)

結果:2012年度実績値に対して25.6%削減(前年比の削減率18.4%に比べ+7.2%となり)今期目標に対して(2020年度目標比3%削減)大幅に達成している。

コメント:本年度の大幅な削減結果の要因は2023年の気候よりも夏は涼しく冬は暖かった為(気象庁データ)

2)廃棄物の削減及びリサイクルの推進

結果:2012年度実績値に対して9.0%削減目標 → 排出量は目標値に対して33.8%と大幅に達成している。

コメント:一般廃棄物量が昨年1.42tから今年1.39tへ減少。昨年度より売上高は増加となっているが、
廃棄物の仕分けの徹底化や社内の落ち葉、雑草等の乾燥化による削減が効果あり。
リサイクルは廃棄数量も減少(2.7→2.6t)し若干ながらリサイクル率もアップ(95.1→95.6%)している。

3)水使用量の削減

結果:2012年度実績値に対して8.0%削減目標 → 12年度実績の12.9%削減

コメント:水使用量ですが、昨年416.0m³から今年420.9m³と増加。今年は月々の使用量でも3回目標値を超えてしまし(原因はトイレの老朽化による水漏れ)水使用量増加の影響が出ている。

4)化学物質の管理

結果:8月に消毒用のアルコールを更新しました。薬品内の危険物対象物質をリスクアセスメントにて評価し対応。

5)グリーン調達の推進

結果:グリーン調達一覧表の見直し、更新(年1回:3月)

部品のRoHS検査の実施(年1回:7月)

6)自社製品の環境配慮

結果:毎月漏れなく、RoHS・省エネ明細(環境対応部品明細)の使用を遵守

7)生物多様性への対応

結果:毎月巡回実施、巣箱の状況、モッコクの木成長を確認

社員への啓蒙活動の一環としてビデオ視聴を実施

※ 各項目の実績に関しての人数内訳は以下とする。ケミコン東日本㈱エンジニアリング事業部従業員=以下当社従業員とする
省エネルギーの推進・水使用量の削減=実績値/[当社従業員+長期出張者(1ヶ月/2以上の滞在者)+㈱サンキデン様従業員]
廃棄物の削減=実績値/[当社従業員+長期出張者(1ヶ月/2以上の滞在者)]

7. 環境経営計画の2024年度取組結果、次年度(2025年度)の取組内容

(1) 省エネルギーの推進 (CO2の削減)

	2024年度の取組内容及び結果		
	環境経営計画	評価	実施内容
①	空調の設定温度管理の徹底、節電対策	○	表示、朝礼等で冬20℃、夏28℃を徹底
		○	夏場のエアコンタイミング30℃実施
		○	扇風機等を積極的に活用
		○	朝晩など積極的に外気取り入れを推進
		○	よしず、すだれ、グリーンカーテンを設置
②	照明、OA機器の節電、省電力設定の徹底	○	昼休み時の消灯、不在時の消灯の徹底、実施可能なコピー機、プリンター、PCは全て省電力設定に変更。第一工場のLEDへの更新拡大
③	簡易間仕切り、作業エリアの分割、限定推進	○	カーテン等で使用エリアの分割、限定を実施
④	デマンドの活用	○	デマンドを活用し、データ収集中、ピーク値管理を強化
⑤	社有車エコ運転の徹底	○	表示等でのエコ運転、燃費順の優先使用徹底
⑥	社有車自主定期点検の徹底	○	毎月点検実施、事故防止、燃費向上を図る
⑦	コンプレッサーのエアータンク点検/整備の実施	○	毎月点検を実施
⑧	コンプレッサーのエアータンク漏れ点検の実施	○	半年毎に実施
⑨	空調機器フィルター清掃点検の実施	○	半年毎に実施
⑩	第二種圧力容器定期自主点検の実施	○	半年毎に実施
⑪	工作機械定期自主点検の実施	○	半年毎に実施
⑫	省エネルギーの推進・深堀(新規)	○	毎月実施(待機電力削減、環境関連設備投資による電力削減効果確認)

(2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進

①	段ボールのリサイクル徹底(非焼却)	○	分別ルールの実施
②	古新聞・古雑誌等のリサイクル徹底(非焼却)	○	分別ルールの実施
③	緩衝材、木材パレットの再利用	○	置場の設置、継続
④	事務用紙の再利用/リサイクルの徹底	○	シュレッダーにかけて再資源化実施
⑤	部品梱包の簡略化/削減	○	業者への簡略化協力依頼表示実施
⑥	廃棄物置場点検の実施	○	毎月点検を実施
⑦	廃棄物の削減及び3Rの推進・深堀(新規)	○	毎月実施

(3) 水使用量の削減

①	各蛇口の節水、ルールの徹底	○	節水表示により徹底
②	蛇口等の水漏れ点検	○	3か月毎に実施
③	水道メーター点検	○	1か月に2回実施
④	埋設配管点検の実施	○	半年毎に実施
⑤	水使用量の削減・深堀(新規)	○	毎月実施

(4) 化学物質の管理

①	新たな化学物質使用の監視・確認	○	1年を通してPRTR法の該当品はないことを確認
②	化学物質一覧表の見直し、定期更新	○	年2回更新実施
③	灯油置場点検の実施	○	毎月点検を実施
④	薬品油類置場点検の実施	○	毎月点検を実施
⑤	フロンガス使用機器点検	○	年4回、空調機等簡易定期点検を実施

(5) グリーン調達への推進

①	グリーン調達一覧表の見直し、定期更新	○	年1回更新実施
②	部品のRoHS検査の実施(新規)	○	年1回更新実施。発注時における外部業者によるRoHS検査証明書発行による確認

(6) 自社製品の環境配慮

①	環境部品明細(RoHS対応、省エネ)使用の遵守・確認	○	新規設計案件において、遵守率100%を達成。省エネ機器の選定9件実施
②	小型化、長寿命化、部品点数削減の推進	○	表示及び設計開始時、検図時の確認を実施
③	省エネ部品使用の推進・深堀(新規)	○	年2件実施

(7) 生物多様性への対応

①	巣箱の設置(野鳥の保護)	○	毎月1回巡回を実施
②	植樹・モッコクの木(野鳥の保護)	○	毎月1回巡回を実施及び4〜9月消毒を行う
③	教育VTR視聴(生物多様性について)(新規)	○	年1回実施

取組結果の凡例: ○実施 △不十分 ×未実施

	2025年度(次年度)の取組内容	
	環境経営計画及び取組内容	特記事項
①	空調の設定温度管理の徹底、節電対策	継続
②	照明、OA機器の節電、省電力設定の徹底	継続
③	簡易間仕切り、作業エリアの分割、限定推進	継続
④	社有車エコ運転の徹底	継続
⑤	社有車自主定期点検の徹底	継続
⑥	コンプレッサーのエアータンク点検/整備の実施	継続
⑦	コンプレッサーのエアータンク漏れ点検の実施	継続
⑧	空調機器フィルター清掃点検の実施	継続
⑨	第二種圧力容器定期自主点検の実施	継続
⑩	工作機械定期自主点検の実施	継続
⑪	省エネルギーの推進・深堀	継続

①	段ボールのリサイクル徹底(非焼却)	継続
②	古新聞・古雑誌等のリサイクル徹底(非焼却)	継続
③	緩衝材、木材パレットの再利用	継続
④	事務用紙の再利用/リサイクルの徹底	継続
⑤	部品梱包の簡略化/削減	継続
⑥	廃棄物置場点検の実施	継続
⑦	廃棄物の削減及び3Rの推進・深堀	継続

①	各蛇口の節水、ルールの徹底	継続
②	蛇口等の水漏れ点検	継続
③	水道メーター点検	継続
④	埋設配管点検の実施	継続
⑤	水使用量の削減・深堀	継続

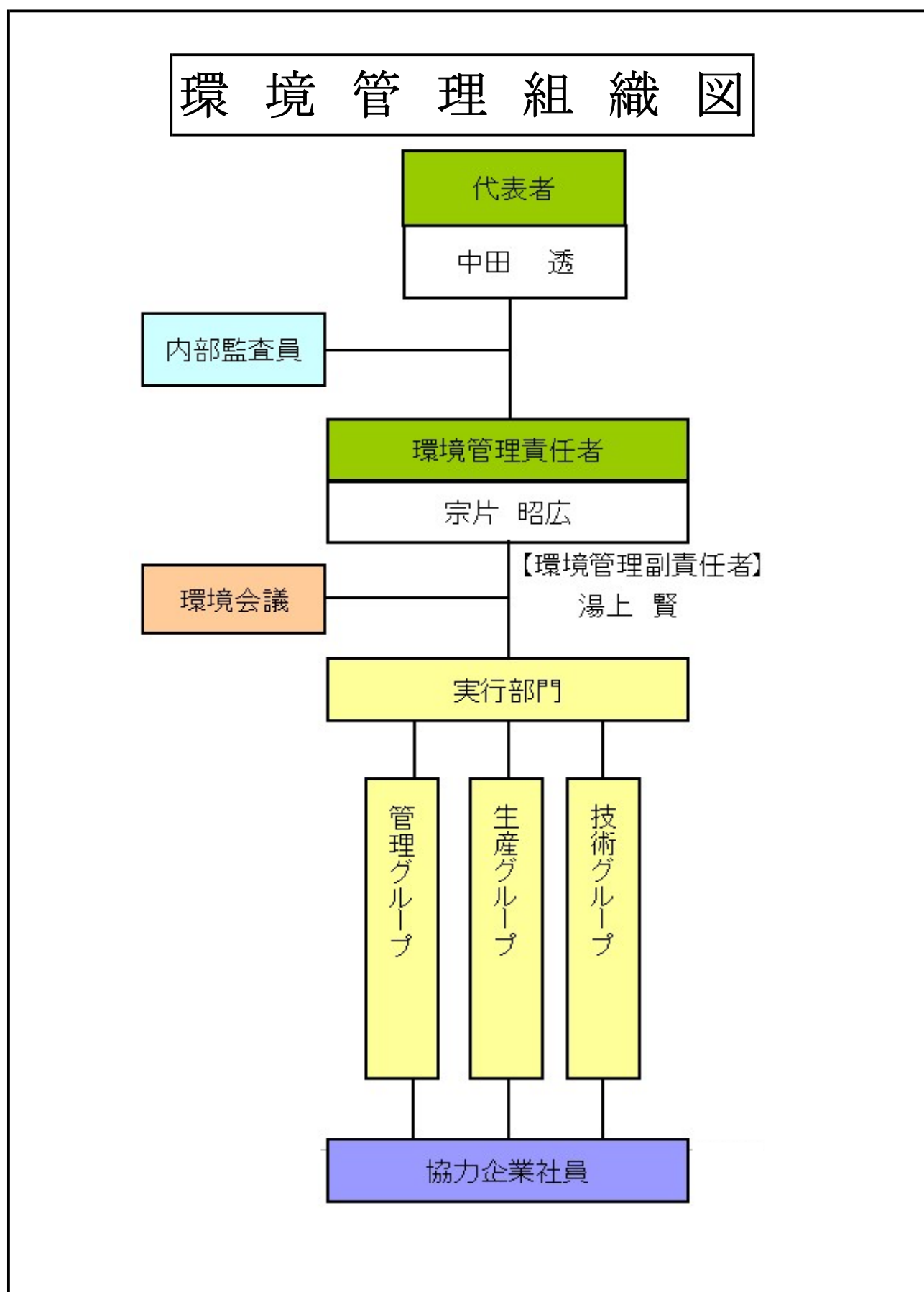
①	新たな化学物質使用の監視・確認	継続
②	化学物質一覧表の見直し、定期更新	継続
③	灯油置場点検の実施	継続
④	薬品油類置場点検の実施	継続
⑤	フロンガス使用機器点検	継続

①	グリーン調達一覧表の見直し、定期更新	継続
②	部品のRoHS検査の実施	継続

①	環境部品明細(RoHS対応、省エネ)使用の遵守・確認	継続
②	小型化、長寿命化、部品点数削減の推進	継続
③	省エネ部品使用の推進・深堀	継続

①	巣箱の設置(野鳥の保護)	継続
②	植樹・モッコクの木(野鳥の保護)	継続
③	教育VTR視聴(生物多様性について)	継続

8. 環境経営計画の実施体制

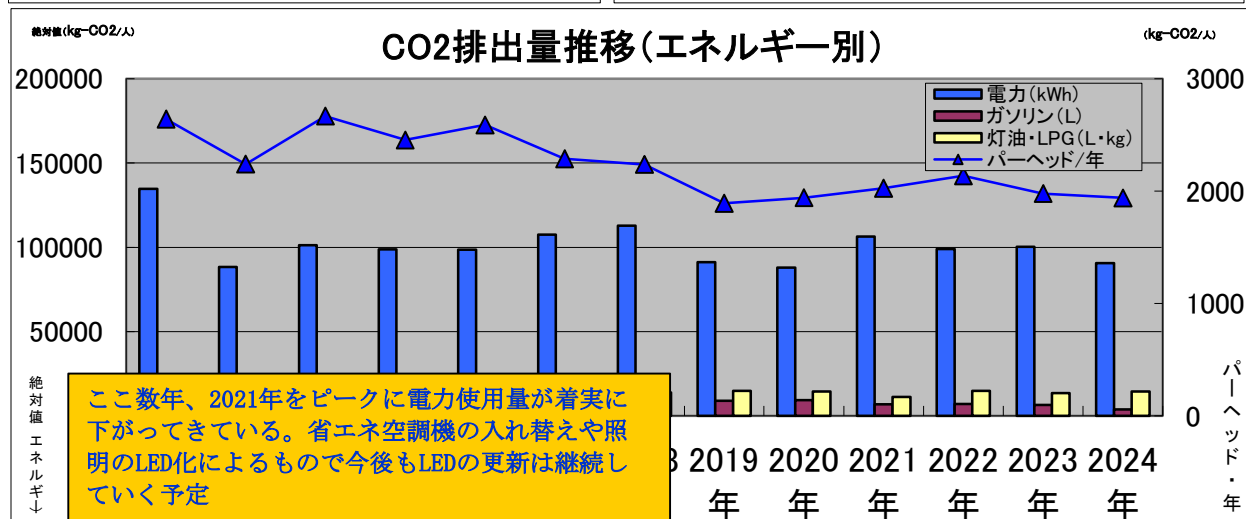
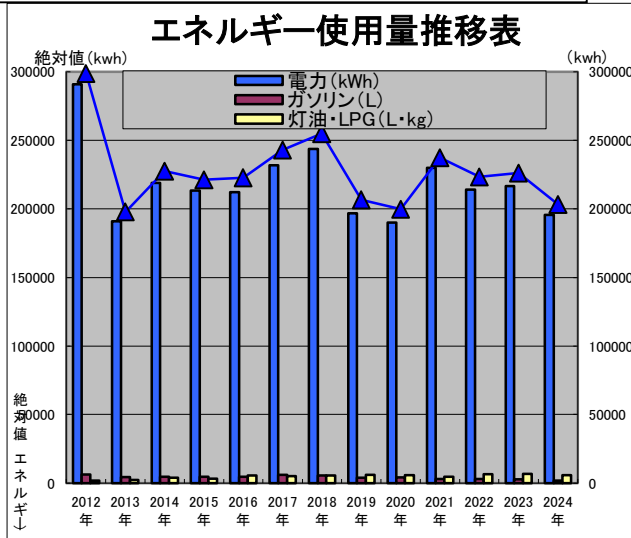
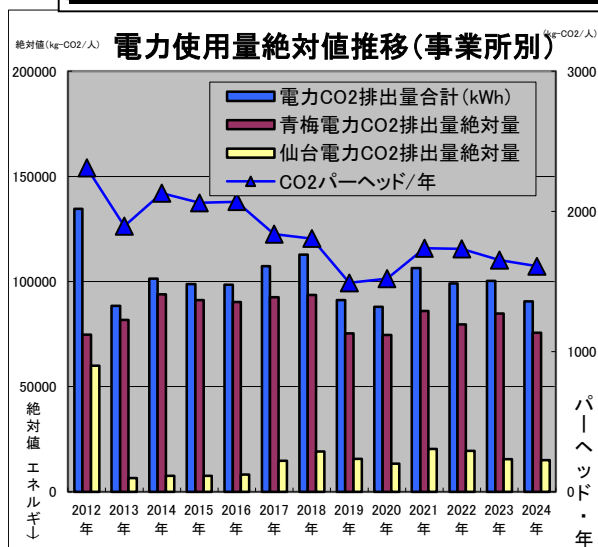
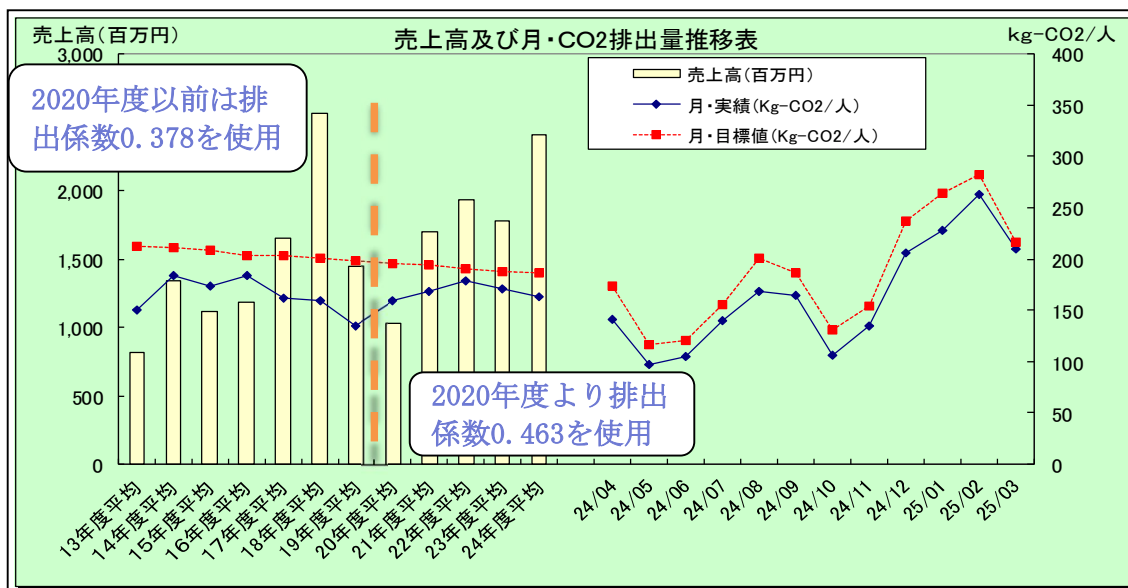


EA21活動

活動内容の紹介

2024年度は昨年度よりも寒暖差がなく過ごしやすい年でしたので月々の目標値をオーバーしませんでした。2022年度より着実に年間のCO2排出量も削減されており（2022年度179.0→2024年度163.6kg-CO2/人）、2025年度も照明のLED化を実施し、こまめな節電を心がけ省エネルギーを進めて参ります。

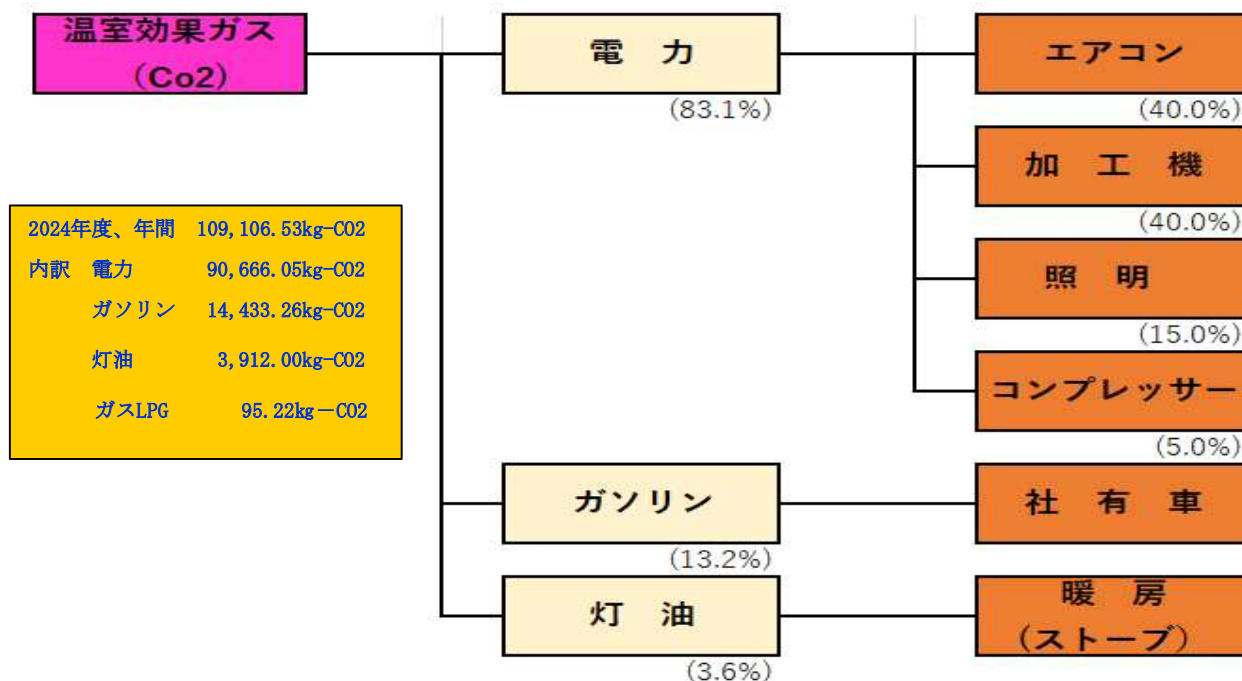
(1) 省エネルギーの推進(CO2削減)



活動内容の紹介

(1) 省エネルギーの推進(CO2削減)

*温室効果ガス内訳



*現在、活動継続中

導入・設置年月	省エネ対策内容
2013年	暖房マニュアル作成(暖房開始時間の調整及び暖房とストーブの併用)
2014年8月	トイレに人感センサーを設置し、電気の消し忘れ等の節電
2014年11月	(カローラ)ハイブリッドカーへ入替
2015年9月	(プリウス)ハイブリッドカーへ入替
2016年9月	水銀灯からLEDへ効率蛍光灯へ更新(第一工場加工場) 10本/10本 100%
2016年10月	(カローラ)ハイブリッドカーへ入替 仙台
2016年11月	空調機器入替による効率化、CO2、電力量削減(第三工場)
2017年3月	屋根断熱塗装による節電、CO2、電力量削減(第二工場)
2017年5月	(カローラ)ハイブリッドカー1台新規導入 仙台
2017年7月	空調機器室外機へ日避けヒートを設置
2017年9月	(プリウス)ハイブリッドカーへ入替
2017年9月	第一工場加工場、LED高効率照明へ更新 20/50本 40%
2018年2月	新工場、LED高効率照明を設置 50/50本 100%
2018年5月	第三工場、LED効率照明に更新 50/132本 38%
2018年8月	第三工場シャッターへ遮光シートを設置
2019年5月	第三工場、省エネ空調機器導入
2019年8月	第三工場シャッターへ遮光シートを設置(追加)
2019年8月	事務所窓へ遮光シートを設置
2019年10月	事務所、省エネ空調機器導入

* 2019年度以降に導入・設置したものは次ページにて紹介

*現在、活動継続中(前頁より)	
導入・設置年月	省エネ対策内容
2020年6月	3F設計室、省エネ空調機器導入
2021年2月	仙台、省エネ高効率コンプレッサに更新
2021年2月	仙台 加工場、省エネ空調機器導入
2021年2月	3F設計室、LED高効率照明に更新 14/14本 100%
2021年6月	エアコンの入替_青梅事業所2F全体朝礼室3台交換
2021年6月	エアコンの入替_仙台事業所組立西側1台交換(省エネ対応)
2021年9月	照明のLED化_青梅事業所事務所48本中48本更新
2021年12月	エアコンの入替_青梅事業所1F配線場1台交換(省エネ対応)
2022年1月	社有車の入替(青梅事業所1台)
2022年6月	照明のLED化、仙台事業所51本更新
2022年7月	照明のLED化、青梅事業所44本更新
2022年9月	社有車の入替(青梅事業所1台)
2023年1月	照明のLED化、青梅事業所52本更新
2023年7月	エアコンの入替_青梅事業所 第一工場2F管理室
	2024年度の活動内容は以下の通りです。

2024年度、活動内容の紹介

(1) 省エネルギーの推進(CO2削減)

- ①社有車の入替 仙台事業所 2024年4月実施
- ②照明のLED化青梅事業所第一工場6月実施(26本)、10月実施(44本)

■2024年度の電力削減効果実績(計算値)

電力削減量 3,410Kwh
 年間効果金額 $3,410\text{Kwh} \times 17.5\text{円} = 59,675\text{円}$
 $\rightarrow \text{TOTAL電力量削減比率} = 3,410\text{Kwh} / 183,031\text{Kwh} (2023\text{年度TOTAL電力量実績}) = 1.86\%$

CO2全体に占める電力量の割合は直近で85%
 $\rightarrow \text{TOTAL CO2削減比率} = 1.86\% \times 85\% = \mathbf{1.58\% \text{削減}}$ (中期目標1%削減)

- ・コンプレッサー室、事務所窓へ遮光シート設置及び夏季不使用時エアコンブレーカOFFによる待機電力削減、毎月の活動(空調設定温度管理の徹底、照明、OA機器の節電、簡易間仕切り、作業エリアの分割等)も継続して行っております。

2025年度取組予定

- ・LED照明への更新拡大
- ・エアコンの入替_1F商談室、2F実験室

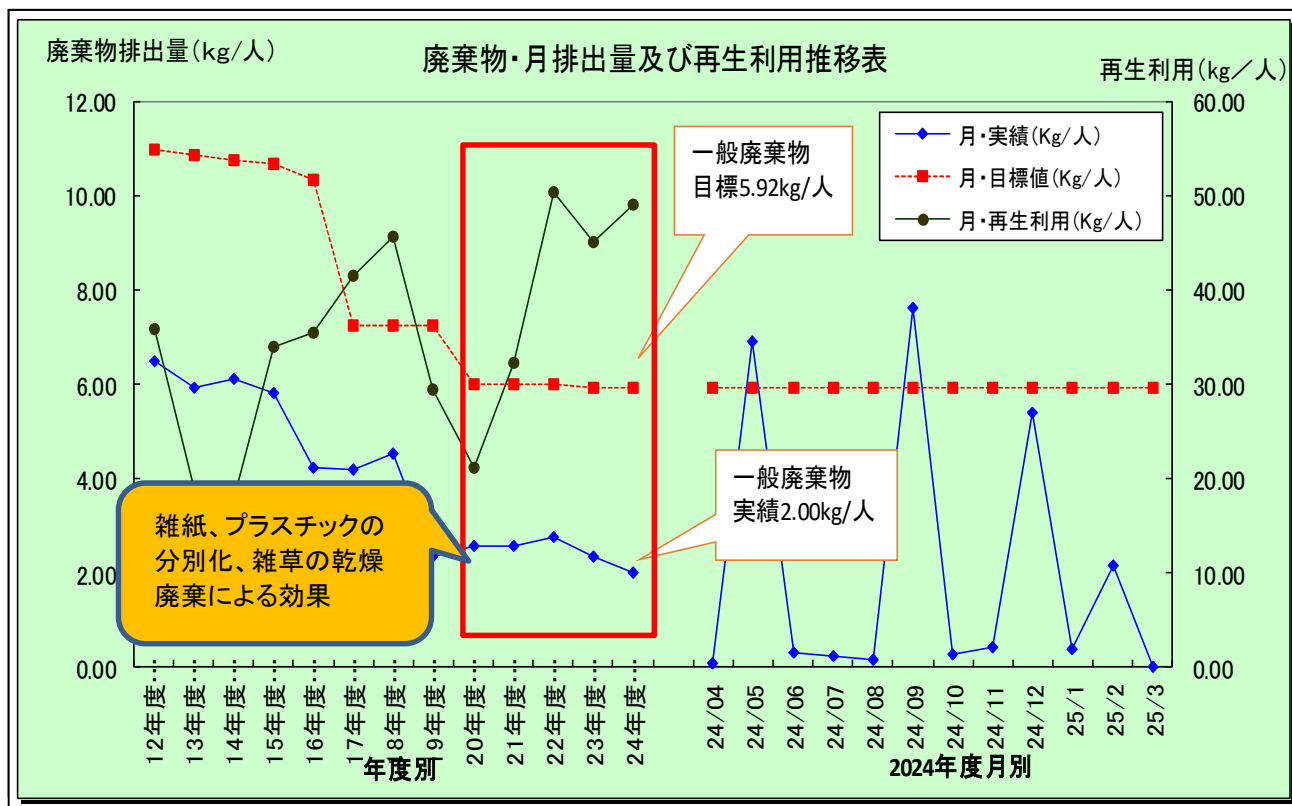


事務所へ遮光シート(一基追加)設置
(CO2、電力量削減)

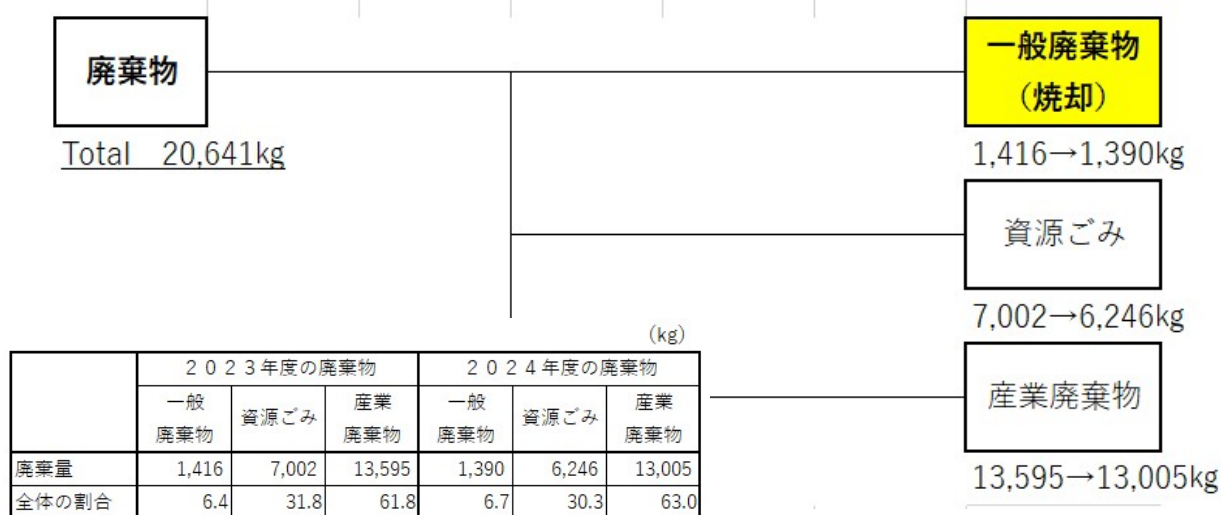
活動内容の紹介

(2) 廃棄物の削減・リサイクルの推進

*廃棄物の内訳



廃棄物の変動内訳 (2023→2024年度)



2024年度は一般廃棄物削減目標が月間5.92kg/人に対し実績値は2.00kg/人と目標を達成しました。一般廃棄物量が昨年1,416kgに対し1,390kgと減少、廃棄物総数も2023年よりも1,300kgほど減少しており、“無駄な廃棄物を出さない”という習慣が身についてきたと考えられる。3種の廃棄物の割合も変わらず、ゴミの仕分けの徹底化が継続されている。

活動内容の紹介

(2) 廃棄物の削減・リサイクルの推進

2021年より一般廃棄物削減を目的に、社内外清掃時の落ち葉を回収し木箱に貯めて乾燥させゴミ袋への回収容量を約1/2の量まで削減させた。(年間90kgの削減)

また、本年度もごみの分別を継続し一般廃棄物を削減してゆく。

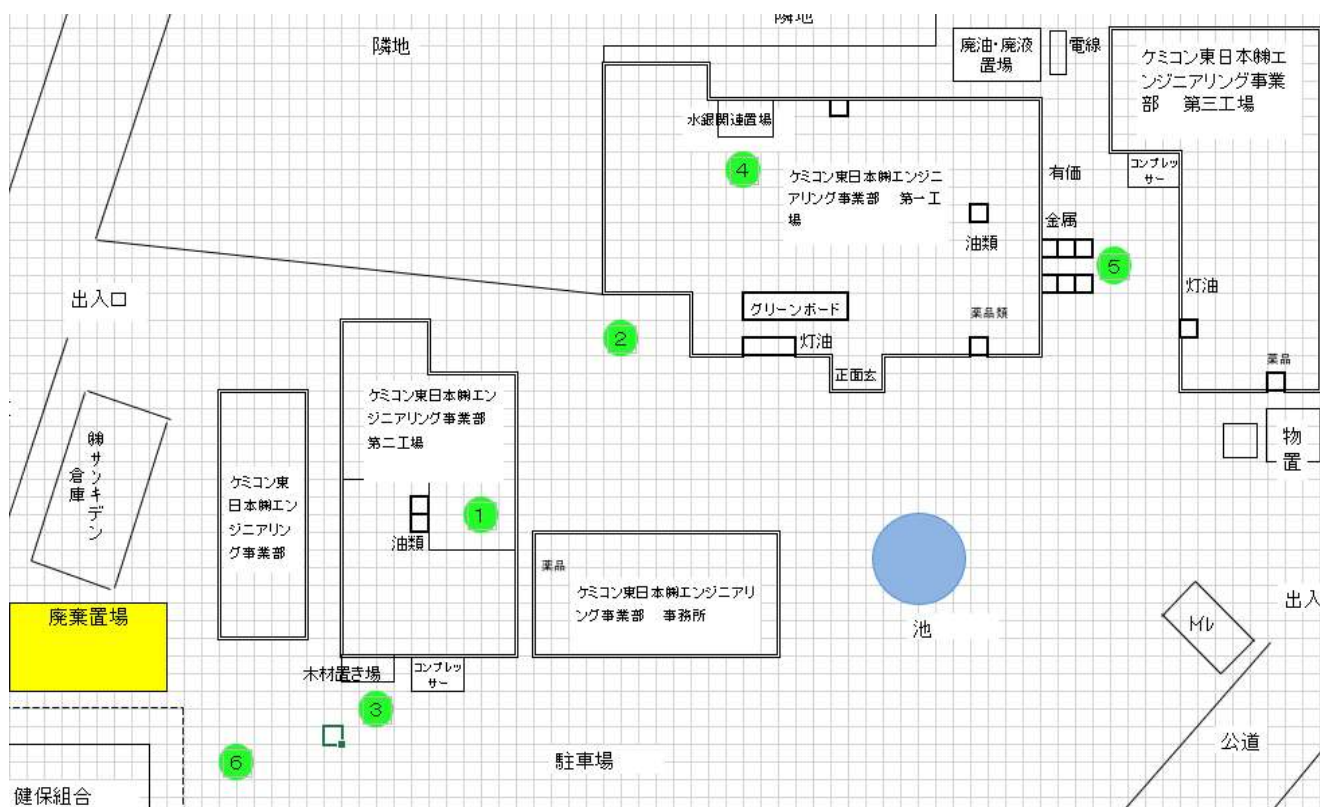
一般ゴミ: 昨年 1,416kg→今年 1,390kg (廃棄物全数が昨年度より減少。雑紙、プラスチックの分別化や雑草の乾燥化による廃棄量削減等がここ数年継続的に行われている)

落ち葉、草の乾燥化によるごみ回収量の削減

	22年度	23年度	24年度
乾燥前の袋回収数(袋)	8	13	29
乾燥後の袋回収数(袋)	4	7	16
削減枚数(袋)	4	6	13
削減量(kg)	53	55	90



ケミコン東日本㈱エンジニアリング事業部廃棄物置場レイアウト



活動内容の紹介

(2) 廃棄物の削減・3R(リデュース、リユース、リサイクル)の推進

廃棄物置場①～⑥の分別内容

1 段ボールの再利用緩衝材 梱包材の再利用 (リユース)



2 パレットの再利用(リユース)



3 木くずの分別廃棄→再資源化(リサイクル)

4 蛍光灯、乾電池の分別廃棄→再資源化(リサイクル)

2018年10月設置場所変更



廃棄物処理法改正に伴い設置(水銀関係)
2017年10月施行
蛍光灯は割れないように保管可能



5 鉄、ステンレス等有価物の分別廃棄 →再資源化(リサイクル)



6 草取りによって発生した廃棄物の廃棄手段変更
そのまま廃棄→乾燥(リデュース)



2020年11月より実施

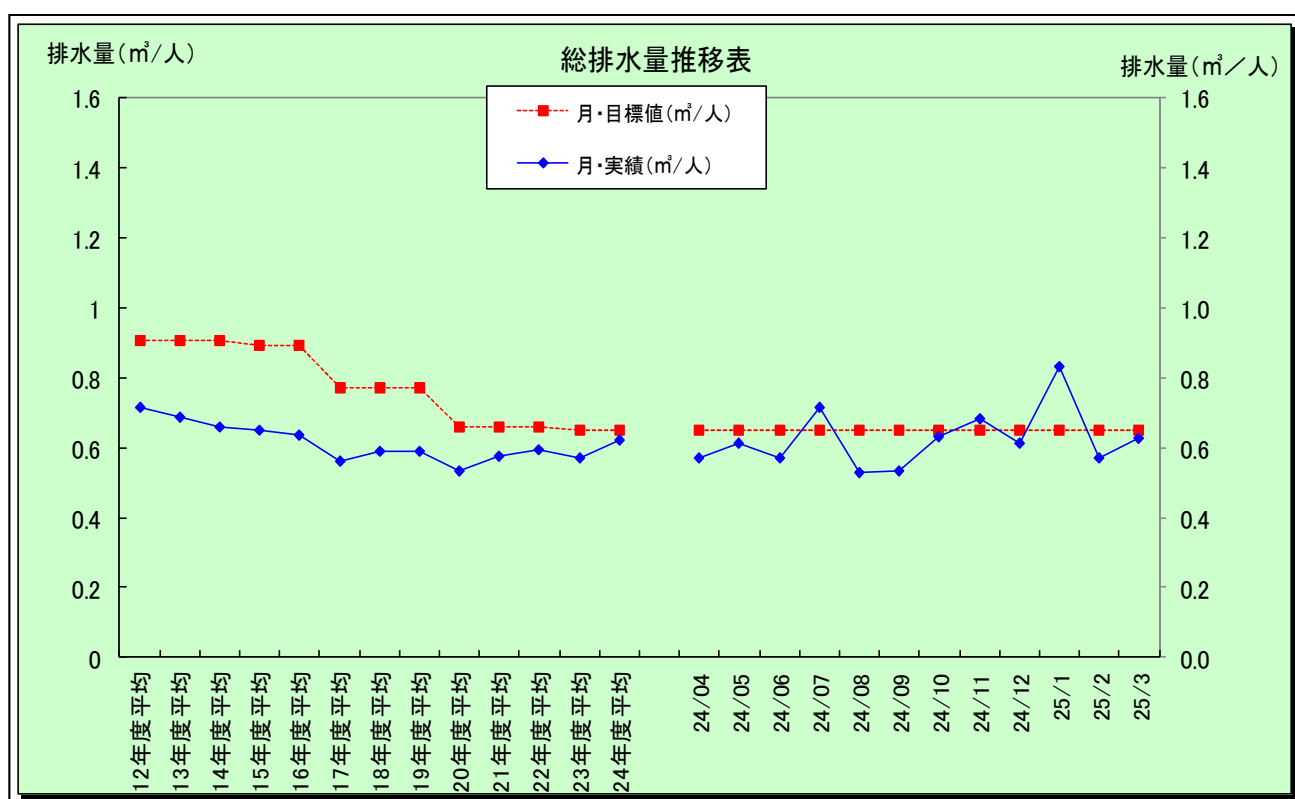
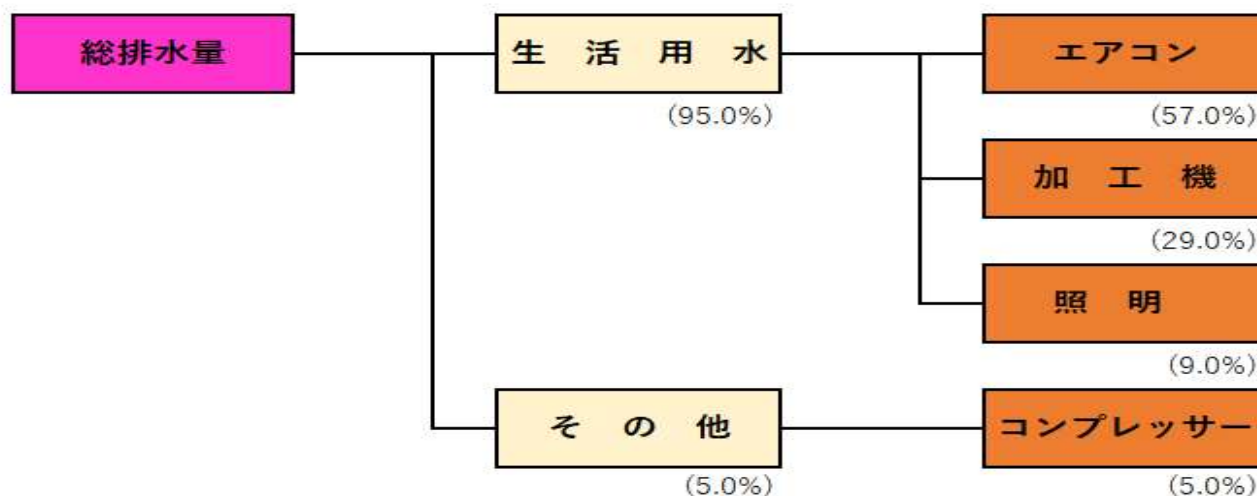
活動内容の紹介

(3) 水使用量の削減

総排水量の内訳

2024年度、総排水量は420.57m³

トイレ227.7m³、手洗い115.9m³、掃除36.0m³



2024年度は、総排水量は昨年415.5m³から今年420.9m³と僅かに増加しておりますが、原因としましてはトイレの老朽化による水漏れが原因（本年度の3回目標値を超えている要因）です。対策としましては毎月行っている水漏れ点検を4→6回に増やし大量の水漏れを削減します。100%生活用水のみですので削減は非常に厳しいかと思われませんが、ケミコングループ全体で水使用量の削減が求められており、弊社でも意識向上を図り、更なる節水へ務めていきたいと思っております。

活動内容の紹介

(3) 水使用量の削減

*節水対策

2020年度9月より、無駄な水使用を削減するべく、蛇口1ヶに1枚手順書を添付し従業員に意識付けを行っております。



効率の良い手洗い手順書を蛇口付近に添付

2020年9月導入

水道メータ点検シート

水漏れ点検記録1/2(青梅)									
年度: 月 日 点検頻度: 月1回 点検日: 月の中旬頃 点検担当: 管理									
重要: 異常時(水漏れ時)は、直ちに責任者に連絡し対応・修理を行う事。									
点検日 月 日 点検担当者									
点検項目									
OK NG 特記事項									
水道 蛇口からの水漏れはないか(錆みは悪くないか(シンク等の腐食))									
①第1工場1F 正面手洗い場									
②第1工場1F 加工場、コフレッサー室									
③第1工場2F 食堂									
④第1工場2F 男子トイレ内手洗い場									
⑤第1工場2F 設計室									
⑥事務所 給湯室									
⑦正門 トイレ内手洗い場									
トイレ、タンク等からの水漏れはないか(流れていないか)									
①第1工場2F 男子トイレ									
②正門 男子トイレ									

※点検: 現場管理責任者、承認: 担当上司(グループ長)、承認: (捺印)

タミコン機械株式会社

プッシュ式蛇口に変更(手洗い場全数)

2020年11月導入

第一工場手洗い場へ節水用パブル90を設置: 性能的に50%削減可能

蛇口等からの水漏れ点検シート

水道メータ点検記録(青梅)									
年度: 月 日 点検頻度: 月2回 点検日: 月初めの朝、月の中旬頃の朝 点検担当: 管理									
重要: 異常時(水漏れ時)は、直ちに責任者に連絡し対応・修理を行う事。									
平均使用量が1.2以上の場合異常。									
点検日 月 日 点検担当者									
メーター値 使用量(%) 日数(日) 平均使用量(%)									
1回目									
手 部 2 手 部 1 確認									
点検日 月 日 点検担当者									
メーター値 使用量(%) 日数(日) 平均使用量(%)									
2回目									
手 部 2 手 部 1 確認									
点検日 月 日 点検担当者									
メーター値 使用量(%) 日数(日) 平均使用量(%)									

※1: (前回のメーター値) - (今回のメーター値)
 ※2: 前回の点検時から今回の点検時まで
 ※3: ※1の値÷※2の日数
 ※確認: 現場管理責任者

タミコン機械株式会社

月2回の点検により早
めに水漏れが発見

埋設配管点検シート

埋設配管点検記録(青梅)									
年度: 月 日 点検頻度: 5ヶ月に1回(1.6、1.2回) 点検日: 月の中旬頃 点検担当: 管理									
重要: 漏水時は、直ちに責任者に連絡し対応・修理を行う事。									
点検日 月 日 点検担当者									
点検項目									
OK NG 特記事項									
目視による地下配管(漏水)の有無の確認 (確認方法: 平高の埋設パイプへ水を流しマンホール①~④(図を参照)に水が流れてく るかを目視により点検を行う。)									
確認①~④のマンホールへの水の流れをチェックする。									
※確認事項									
①第1工場1階手洗い場へ水を流し									
②①のマンホールへの水の流れを確認									
③第1工場1階へ水を流し									
④③のマンホールへの水の流れを確認									
⑤第1工場2階へ水を流し									
⑥⑤のマンホールへの水の流れを確認									
⑦正門付近のトイレへ水を流し									
⑧⑦のマンホールへの水の流れを確認									

タミコン機械株式会社 青梅事業所建設 施設配置図 図1(2014.6.24)

2016年度より開始

(4) 化学物質の管理



危険物保管庫による薬品管理

油類置き場

新たな化学物質を使用していないかチェック

No. 49

青梅：化学物質最大保管量一覧表

施設名称： 江戸 青梅

化学物質名	保管数量	第一工場		第二工場		第三工場		第四工場		第五工場		第六工場		第七工場		第八工場	
		最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量	最大保管量	現在保管量
4 級 1 石 1	200	0	0	4,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級 2 石 1	600	1,500	0	40,000	10,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級 3 石 1	1,000	100	100	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
4 級 4 石 1	2,000	100	100	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
4 級 5 石 1	6,000	100	100	50,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000	10,000
4 級 6 石 1	2,000	0	0	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級 7 石 1	1,000	0	0	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級 8 石 1	1,000	0	0	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級 9 石 1	1,000	0	0	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 級 10 石 1	1,000	0	0	5,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

化学物質最大保管量

平成 27 年 2 月 28 日現在

※本表は、青梅市に所在する青梅市立青梅高等学校の化学物質最大保管量を一覧表として作成したものである。青梅市立青梅高等学校の化学物質最大保管量については、青梅市立青梅高等学校の化学物質最大保管量一覧表を参照すること。

平成 27 年 2 月 28 日現在

※本表に掲載されている情報は、行先を任意に選択してご利用ください。

作成日： 2015. 3. 1

No	品名	メーカー	納入先	保管場所	数量	単位	金額	危険物分類	備考
1	1 ロックウェル 7401	ペンタックス	第五工場	第一工場保管庫	132	kg	0	第 4 類 1 石 1	
2	2 スリーベン 1401	スリーベン	第五工場	第一工場保管庫	2	kg	0	第 4 類 1 石 1	
3	3 スミス パーク 7401	スミス	第五工場	第一工場保管庫	5	kg	0	第 4 類 1 石 1	
4	4 ミツバチ エネルギー	山一化学工業	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
5	5 シンコ スプレー	信栄	第五工場	第一工場保管庫	2	kg	0	第 4 類 1 石 1	
6	6 灯油	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
7	7 テンノリ 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
8	8 テンノリ 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
9	9 スーパー マスター 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
10	10 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
11	11 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
12	12 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
13	13 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
14	14 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
15	15 シンタラ 7401 12	イシダ 7401 12	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
16	16 シンタラ 7401 12	イシダ 7401 12	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
17	17 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
18	18 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
19	19 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
20	20 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
21	21 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
22	22 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	
23	23 10 10 7401	信栄	第五工場	第一工場保管庫	1	kg	0	第 4 類 1 石 1	

年2回、化学物質の在庫状況をチェックして一覧表を更新し、毎月各部屋の薬品棚をチェックし、身体に有害な物質を使用していないか、法を遵守しているかを確認。

毎月の点検を実施

油類保管点検シート

文書番号 CE-361-24A

灯油置場点検記録(青梅)

年 月実施分 点検頻度:1回/月 点検日:月の中旬頃 承認:1回/月 担当部門:生産G

重要：異常時は、直ちに責任者に通報と同時に是正処置し記録
(CE-110-3.12.4, CE-384)のこと。

対象：灯油置場（第一工場加工場灯油保管用ポリ容器）

点検日	月	日	点検担当者			
点検項目			OK	NG	特記事項	
キャップ部の漏れ無きこと						
破損無きこと						
表示の欠落無きこと						
防油堤(オイルパン)破損・亀裂無きこと						

対象：灯油置場(第三工場組立場灯油保管用ポリ容器)

点検日				月		日		点検担当者	
点検項目				OK		NG		特記事項	
キャップ部の漏れ無きこと									
破損無きこと									
表示の欠落無きこと									
防油堤(オイルパン)破損・亀裂無きこと									

対象：灯油置場(新工場組立場灯油保管用ポリ容器)

点検日	月	日	点検担当者	
点検項目	OK	NG	特記事項	
キャップ部の漏れ無きこと				
破損無きこと				
表示の欠落無きこと				
防油堤(オイルパン)破損・亀裂無きこと				

※確認:環境管理責任者、承認1:担当者上司(グループ長)、承認2:事業部長

ケミコン東日本株式会社エンジニアリング事業部

毎月、薬品・油類、灯油置場等の定期点検を実施し記録簿へ記載。

活動内容の紹介

(7) 生物多様性への対応



24年5月巣箱清掃
後シジュウカラが
営巣しました。



2017.05、モッコクの木(2本)植樹全
長290cmほどに成長 剪定等手入れ
を行い管理
写真撮影(2024年春)



24年5月第二工場
軒下にインビヨドリ
が営巣しました。

生物多様性についての勉強会を開
催2024.12実施



(8) 仙台事務所の活動



仙台事務所風景



グリーンボード



節電の推進



省エネ間仕切り



再生利用の推進



節水の推進(蛇口をレバー式に変更)



化学物質の管理



エアコン、コンプレッサー入替(省エネ対応)



廃棄物置場保管・管理

- ・青梅事業所同様に節電推進、節水推進、グリーンボードにより環境負荷や活動の状況を周知するなど環境維持活動を実施。
- ・省エネルギーの推進、廃棄物の削減、再生利用の推進、化学物質の管理を実施。

活動内容の紹介

(9)その他

●社員への教育・訓練

2008..4 スタート

環境教育名（内容概略）	対 象	教育サイクル	2024年度実施状況
入社・異動時教育 （環境への取組み、方針、他）	新入社員、異動者	発生の都度	10月、1名 11月、1名 3月、1名
一般教育 （方針、目標、経営計画、各自の役割・権限・責任他）	全従業員	年1回	5月、47名
環境関連従事者教育 （法規制、遵守手順他）	関連従業員	年1回	11月、10名
緊急時対応教育訓練 （対応手順テスト、訓練他）	関連従業員	年1回	11月、23名
環境法規遵守状況を評価する者への教育 （外部機関への研修会参加、関係書籍の通読等）	環境管理責任者	年1回	7月 ISO14001勉強会（宮城工場にて）
内部監査員教育 （マニュアル、監査内容、試験他）	対象従業員	欠員が出た都度	4月、2名
労働安全衛生教育、一般教育 （加工機械使用時の注意事項、実技指導他）	対象従業員	年1回	11月、12月 29名
一般教育 教育DVDを視聴し環境に対する意識を高める（資料：教育動画 生物多様性って何？）	全従業員	年1回	12月、40名

内部監査できる資格者を増員中

2024年5月実施

青梅・仙台共に実施



一般教育（エコアクション社内教育実施）

2024年11月実施



青梅・仙台共に実施



緊急時対応教育訓練（油類等流出時対応訓練実施）

労働安全衛生教育（工作機械使用時の注意事項、実技指導）

活動内容の紹介

(9) その他

●社会貢献活動(ボランティア活動)

青梅市内美化活動、健康促進活動の一環として、10月に市内を清掃しながらのウォーキングを実施。



仙台事業所

5S活動の一環として、毎日清掃
地域環境美化の意識向上を図る

※撮影NGの方がいらしたので一部写真に加工しております

9. 環境関連法規等の遵守状況の確認 及び違反、訴訟等の有無

当社の2024年度における環境関連の適用法令に基づく遵守状況の確認結果の概要は以下の通りであった。(2024年7月18日確認)

1) 青梅事業所

関連法令	該当する活動	遵守状況
騒音規制法	規制基準の遵守	適合
	特定施設の届出	適合
振動規制法	規制基準の遵守	適合
	特定施設の届出	適合
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物の適正保管	適合
	産業廃棄物の適正処分 (運搬、処理の委託)	適合
	マニフェスト管理	適合
労働安全衛生法	安全衛生推進者の選任	適合
	ボイラー及び圧力容器安全規則 (第二種圧力容器の定期自主検査)	適合
フロン排出抑制法	対象機器の簡易点検・定期点検	適合
土壌汚染対策法	土地の一定規模以上(900㎡以上)の 形質変更がある場合の届出義務	適合
道路交通法	安全運転管理者等選任、解任	適合

2) 仙台事業所

関連法令	該当する活動	遵守状況
廃棄物の処理及び 清掃に関する法律	産業廃棄物の適正処分	適合
フロン排出抑制法	対象機器の簡易点検	適合
労働安全衛生法	ボイラー及び圧力容器安全規則 (第二種圧力容器の定期自主検査)	適合

※上記の通り環境に関連する法令について確認した結果不適合はありませんでした。
また、2024年度において近隣・行政等の利害関係者より環境に関する苦情、訴訟はありませんでした。

10. 代表者による全体評価と見直しの結果

【代表者のコメント】

2024年度の環境活動取組結果は目標を達成し、十分な活動内容となりました。

当事業部は、旧_ケミコン精機(株)が2023年10月1日にケミコン東日本(株)に吸収合併されて出来た部門で、合併から1年半が経過しました。

合併後も環境活動の取り組みについては、これまで通りエコアクション21ガイドライン2017年版改定に準拠した活動を継続してきており、2025年度も同様に準拠した活動を親会社である日本ケミコン(株)の方針に基づき、管理部/環境グループとの密な情報交換を通じて活発に取り組んでいきます。

2024年度の市場は、ICT関連は生成AIサーバなどで堅調に推移しましたが、車載関連は世界的にEV市場の成長が減速したことなどから、低調な推移となりました。その中であって日本ケミコングループは戦略市場向けのハイブリットコンデンサの拡販を積極的に進め、宮城工場に製造棟を新設し増産を進めております。それに合わせハイブリットコンデンサ用の設備投資も継続しており、当事業部での設備製作及び部品の受注は順調に推移し多忙な状況でしたが、環境活動に関しては全従業員の積極的な参画により目標を達成することが出来ました。

環境経営計画においては、省エネルギーの推進、廃棄物の削減、水使用量の削減、自社製品の環境配慮に対して深堀を行うなど、継続した取り組みを実施してきました。2025年度も引き続き角度を変えて実施していきます。

2025年度は昨年より設備投資が減少する見込みである事、仙台事業所の機能移転に伴い青梅事業所一ヶ所での活動になる事など変化点がありますが、3ヶ年計画の最終年にあたることから、環境経営計画の目標達成や次の目標値設定に向けて、全従業員一丸となって取り組むことで、より良いシステムを作りながら環境負荷の低減につなげていきます。